

マツグミの生育確認

加藤 泰助

過去のマツグミの分布および生育情報の概要

20年ほど前に山本敏夫先生（当時新潟NHK 趣味講座の講師）の話の中で、「富山県がマツグミの分布の北限」とのことでしたが、筆者は笹神の自宅裏山で見ていたので、すぐ探したが再確認できないでいた。その後、山本敏夫先生が新発田市五十公野で分布を確認したことから、当時マツグミの成熟した果実についての情報が明らかでなかったこともあり、1988年（昭和63年）から果実の生育の過程を詳細に観察することを試みた。しかし、その年の果実は成熟前に鳥に食べられてしまい、完熟した果実の写真も撮影できなかった。翌年64年には、鳥に食べられないように成熟前に網をかけて果実を守り、完熟果実の観察ができた。しかしながら、その直後公園管理人が、その松の枝を、テングス病のような松の伝染病と思って切り落としてしまい、消滅してしまった。

その後、2002年（平成14年）に笹神の松林で生育を確認したので、五十公野同様にマツグミの生育の観察する予定であった。しかしその樹も株元から伐採されたので、詳細な観察結果が得られないまま、消滅してしまった。

マツグミ再発見の経緯と生育の状況

マツグミについては、その後も気掛かりであり、2005年11月8日に五十公野公園でその分布調査を行ったところ、上記の同じ松の樹にマツグミの寄生を再発見した。11月25日に再度訪れて近くの松にも生育状況を観察し、同行の真水さんが樹に登り、多数の若い果実の着実を確認した。

今後の取り組み

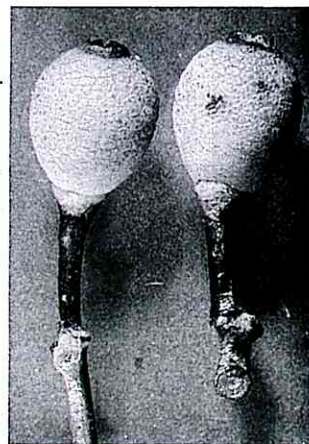
五十公野公園管理者に、マツグミが寄生した樹木を保存しておくように要請し、了解を得ているので、今後継続的に観察を続けることにした。もともと南方系のマツグミが、新潟のような北地で果実の成熟する時期などに差異がある可能性もある。詳細に観察して記録を残しておきたい。



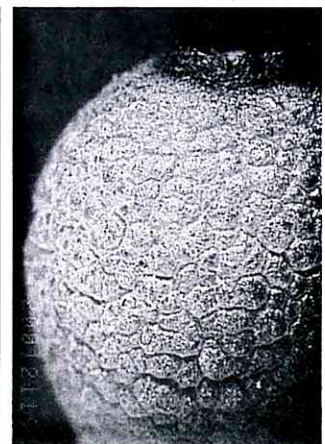
アカマツの枝にテングス病のように寄生するマツグミ (2005年11月21日)



アカマツの枝に寄生したマツグミ (2005年11月25日)



未熟の果実 拡大した未熟の果実(2005年11月21日)



加藤泰助氏寄贈資料

同氏は昭和52年から「ふるさとの詩」と題した冊子を自費出版し、第1号(昭和52年)から第28号(平成16年)まで継続している。この度、当資料室にこれまでの刊行物(4・7号欠)をご寄贈して頂いた。中には植物に関する記録も多く、植物に関する独自の調査記録も含まれている。また、「北海道植物紀行第1・2部(平成9年)と佐渡植物紀行(平成10年)」も刊行している。

上記のご寄稿に加え、資料のご提供に謝意を表します。